

中学校国語科における環境教育単元カリキュラムの開発 単元「過去と今から、エネルギーの未来を考えよう！」の提案

10519 竹田和也
指導教員 市川智史教授

1. はじめに

日本の学校教育における環境教育は、社会科(地理歴史科、公民科)理科、技術・家庭科(家庭科)保健体育科が中心となっており、国語科における実践報告はあまり見られない。そこで本研究では、過去と現在の小・中学校国語科の環境に関する教科書教材を調べ、過去の教科書教材を使用し、社会的な価値観から近年関心事となっているエネルギー問題を取り上げ、環境教育の単元カリキュラムの開発を行った。

2. 研究方法

教科書教材の調査結果より、「エネルギー」を題材・内容とした教材の中から『原子力』(筆者名記載なし、1970年検定、光村図書『小学新国語6上』)と、『未来に生かす自然のエネルギー』(牛山泉、2010年検定、東京書籍『新しい国語6下』)の2つの教材を選定した。この2つの教材を使用し、現在のエネルギー問題や再生可能エネルギーに関する知識を理解させ、再生可能エネルギーと原子力エネルギーを比較し、どちらが安心して安全な

表1 単元の構成

エネルギーなのかを考えさせる内容の単元案を作成した。そして、滋賀大学の授業で大学生を対象に試行実践を行い、単元の実用性の評価に取り組んだ。(単元は全6時間想定で作成したが、試行実践はそのうち4時間分の内容を行った。)

時	学習内容
第1時	『未来に生かす自然のエネルギー』を通読し、エネルギー問題に関心を持ち、「エネルギー源」について知る。
第2時	「エネルギーの問題」や「自然のエネルギー」を知る。
第3時	『原子力』を通読し、原子力発電の特長をまとめる。
第4時	原子力エンジンの利用と40年前の「夢」を読み取らせる。
第5時	第1時、第2時と第3時、第4時の内容を比較する。
第6時	エネルギーの未来を考え、自分の意見をノートにまとめる。

3. 結果

試行実践の結果、次のような指摘が得られた。

- ・今の価値観で40年前のことを考えるのは良かった。
- ・エネルギー問題、再生可能エネルギーの現状について詳しく説明すべき。
- ・発問の内容が難しい、発問はわかりやすく単純にすべき。

単元の内容構成は、現在のエネルギー問題と過去の教材を比較し、あるべきエネルギーの未来を考えるものである。社会的な内容や考えをまだ多く知らない中学生対象の授業では、「あるべきエネルギーの未来」についての考えを深めていくことができるのではないかと考えられる。

4. まとめ

試行実践の結果を踏まえ、作成した単元において、次の3点についての改善を行った。

改善1:教材『未来に生かす自然のエネルギー』で現在のエネルギー問題を押さえる。

改善2:生徒同士の意見の交流の時間をとり、生徒主導の授業にする。

改善3:発問の回数を減らし、発問内容をわかりやすくする。

本研究が、国語科教育での環境教育が発展する1つのきっかけとなることを期待する。